

地域ではぐくまれた 繊維や布の文化に親しむ

地域に伝わる衣生活にかかわる伝統・文化について、地域で古くから生産されてきた繊維や染め物、織物について考え、製作実習でそれらの布を用いた展開例。「C 衣生活・住生活と自立」の(1)衣服の選択と手入れ「A 衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫」と(3)衣生活、住生活などの生活の工夫「A 布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫」とを関連した内容である。

1. はじめに

京都は国内でも有数の歴史的遺産と優雅な伝統的文化に恵まれている。平安建都以来、京都府各地において諸工芸の発展とそれらの材料となる上質の素材の生産も盛んとなった。家庭分野の学習を通して地域で伝統的に生産されてきた繊維や、染め物、織物はどのようなものなのかを知る。

2. 授業展開例

1 和服と洋服の構成の違い

◇比較する視点の明確化

- ・ 開口部の形は？
- ・ どんなパーツ（部分）からできている？
- ・ どうやって着る？

2 地域の伝統的な繊維や布の文化を知る

◇調査活動の実施

- ・ 地域、家庭での聞き取り
- ・ 図書館、資料館の活用
- ・ 生産工場や製作現場への取材、体験

3 地域の伝統的な繊維や布に親しむ

◇布を使つての製作、活用

- ・ きもの型コースターの製作と活用
(資料:きもの型コースターの製作と活用参照)

3. 実践のポイント

直接的な布や繊維の生産地でなくても、自分たちの

地域ではどのように布を手に入れてきたか、調べ学習を通して学習を深めたい。

日常生活の中で家庭や地域で継承されてきた日本の伝統や文化も、生活様式が多様化する現代の生活の中では伝達する機会が減少してきている。「伝統的な布や繊維を使って製作した」ということで終わることなく、製作したものが「生活の中で活かされること」をねらいとして、どう展開するのが効果的か、題材の配列や構成について検討することが大切である。

<きもの型コースター 作品例>



地域の伝統的な布や、地域で生産された繊維で作られた布を用いる。または、布の色や柄の組み合わせを考え、表現を工夫すると良い（作品例は丹後ちりめんを使用）。

資料 きもの型コースターの製作と活用

図1 型紙 (単位cm)

□作り方

- ①型紙 (図1) にあわせて表・裏用布, 接着芯を形に切り, 準備する。
- ②接着芯を裏布に貼り付ける。
- ③表・裏用布を中表に合わせて, 返し口を残して出来上がり線を縫う。
- ④表に返し, 返し口を閉じる。
- ⑤アイロンで整える。

応用として, 表用布を見頃, 袖, 衿, 衤おくみの各部分ごとに切り分け, 縫い合わせて製作してもよい。

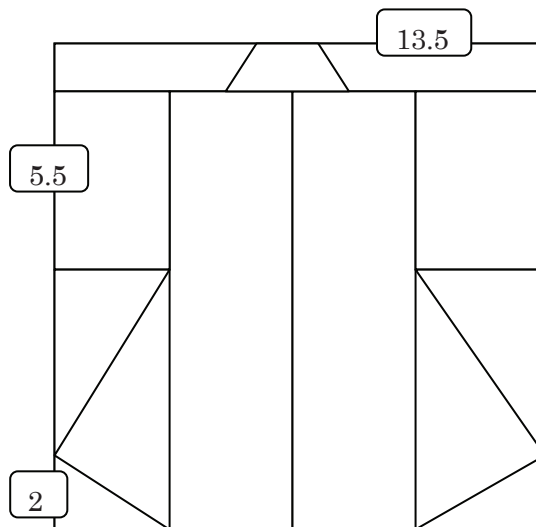


図2

□コースターの活用

京都府では, 宇治茶をはじめ府内各地で良質の茶を栽培している。京都府特産物マップ (図2) などを参考に地域で栽培されている茶を入れて味わったり, その他の食材を使っ
ての調理, 郷土料理の調理と関連させての展開が考えられる。家族への贈り物や, 調査, 調べ学習でお世話になった方へ贈り物として製作する展開も考えられる。



<作品使用例>

参考文献・参考Webページなど

- ・「京都の魅力・観光－京都府ホームページ」 <http://www.pref.kyoto.jp/enjoy.html>
- ・「みやこの逸品 京野菜－京都府ホームページ」 <http://www.pref.kyoto.jp/brand/11700078.html>